



JQA-QMA14933

品質マネジメントシステムの国際規格：ISO9001認証取得
登録活動範囲：
製油所、製造所における石油製品、石油化学製品、およびガスの製造



JQA-EM7027

環境マネジメントシステムの国際規格：ISO14001認証取得
登録活動範囲：
製油所、製造所における石油製品、石油化学製品、およびガスの製造

ENEOS



ENEOS株式会社

〈本社〉〒100-8162 東京都千代田区大手町一丁目1番2号

横浜製造所

〒221-0021 横浜市神奈川区子安通三丁目390番地
TEL.045-461-7111 (代)

<https://www.eneos.co.jp/>



印刷時に、VOC(揮発性有機化合物)などを含む湿し水が不要となる水なし印刷を採用しています。



このパンフレットを印刷した工場の消費電力の一部はCO₂を排出しないグリーン電力を使用しています。



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用しています。



Heartful Yell

エネルギーでエールを贈る。

情熱をかけて何かに打ち込むことができるって素晴らしい。

そんな想いの一つひとつに、私たちは石油というエネルギーでエールを贈りたい。

例えばそれは、その人が使う道具であったり、その道具の素材であったり、

それを動かしたり、使ったり、作ったりするためのチカラ(パワー源)であったり…。

毎日の暮らしの中でもそれは同じこと。さりげない暮らしのあちこちで、

実は、石油エネルギーはあなたを支えているのです。

あなたの毎日の暮らしの中へと続くオイルロード。

ENEOSは、

グローバルなネットワークで

石油の安定供給に貢献しています。

原油の99%以上を輸入に依存する日本。
その多くがペルシャ湾周辺の中東産油国から
12,000kmにおよぶオイルロードを経て運ばれてきます。
これらの原油は、ENEOSが配備する国内の各製油所や
備蓄基地へ運ばれ、原油タンクに貯えられます。
そして、様々な製品やサービスとなって皆様の暮らしを支えています。
有効なエネルギー資源を世界から日本へ。製油所・製造所から皆様の暮らしのシーンへ。
そして<人>と<自然>と<石油利用>が調和された
豊かで美しい地球環境を、未来へ。
その架け橋となるよう、ENEOSは、
日夜、時代のニーズに合わせた石油製品の安定供給に貢献しています。



探鉱・開発



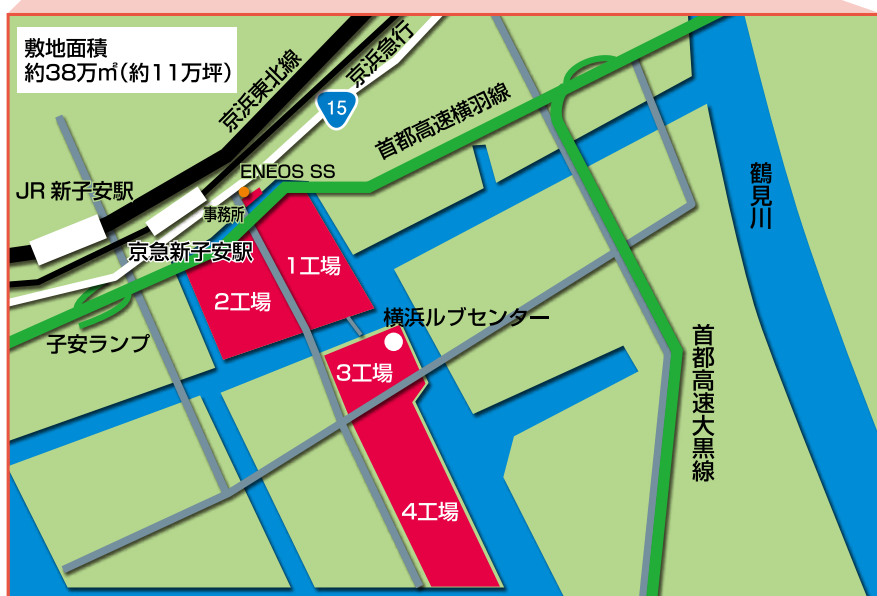
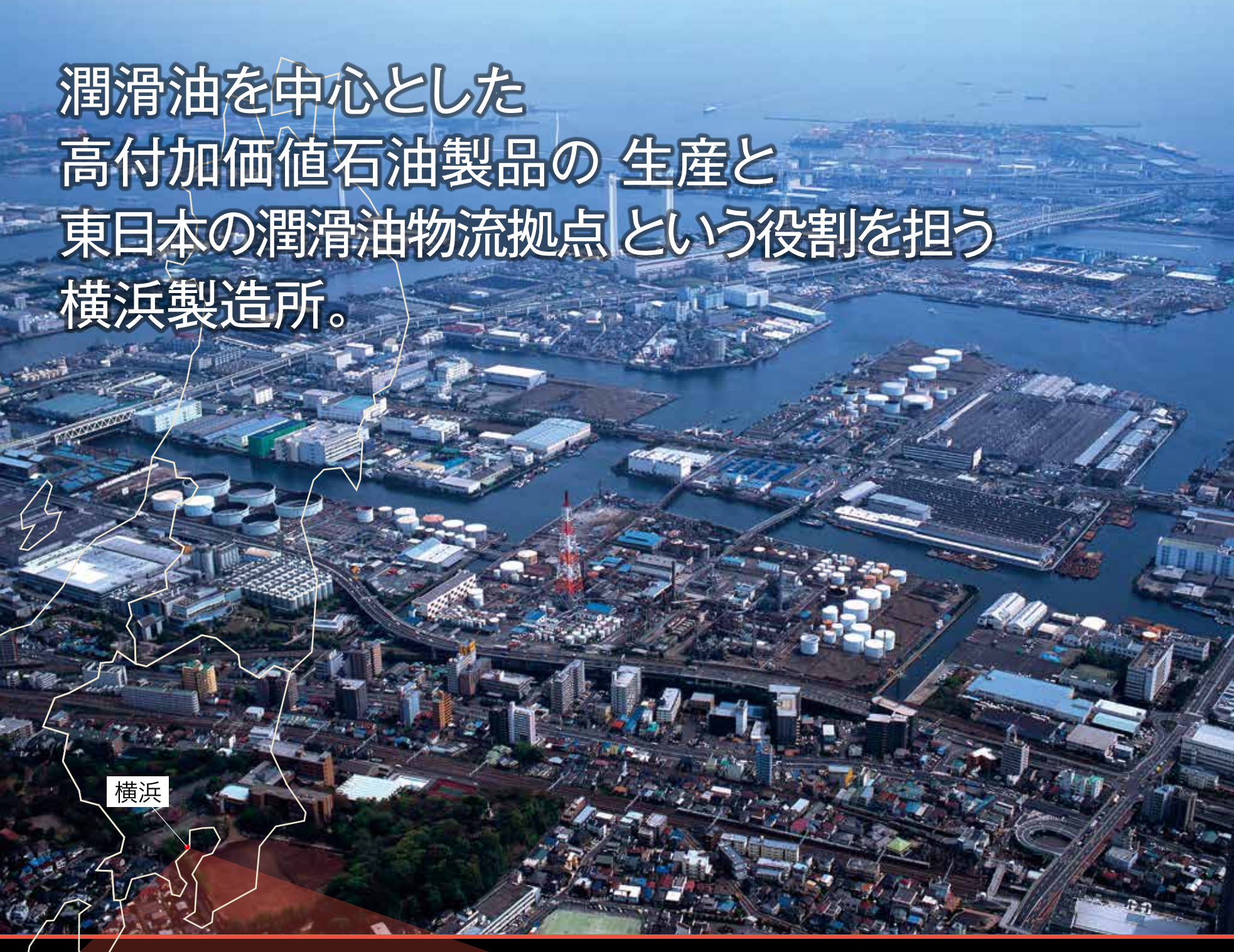
精製・生産



販売

オイルロード

潤滑油を中心とした 高付加価値石油製品の生産と 東日本の潤滑油物流拠点という役割を担う 横浜製造所。



開業以来長い歴史を有する横浜製造所は、
現在、ENEOS他製油所や海外からの原料を使用し、潤滑油、
グリースおよびエンジンテスト用の特殊燃料油など500種類もの各種
石油製品を生産しています。
特に、自動車・各種機械装置に不可欠な高級潤滑油、高性能グリース
などの付加価値の高い製品を生産していることが特徴です。
同時にENEOSの東日本における潤滑油物流拠点として、
製品の安定供給に努めています。
また、炭素繊維(カーボンファイバー)を用いたプリプレグの製造も
行っています。

効率よく、安全に、的確に。 多彩な石油ニーズにお応えしています。

潤滑油は原油を精製して取り出したベースオイルに様々な添加剤を加えて調合・製造します。

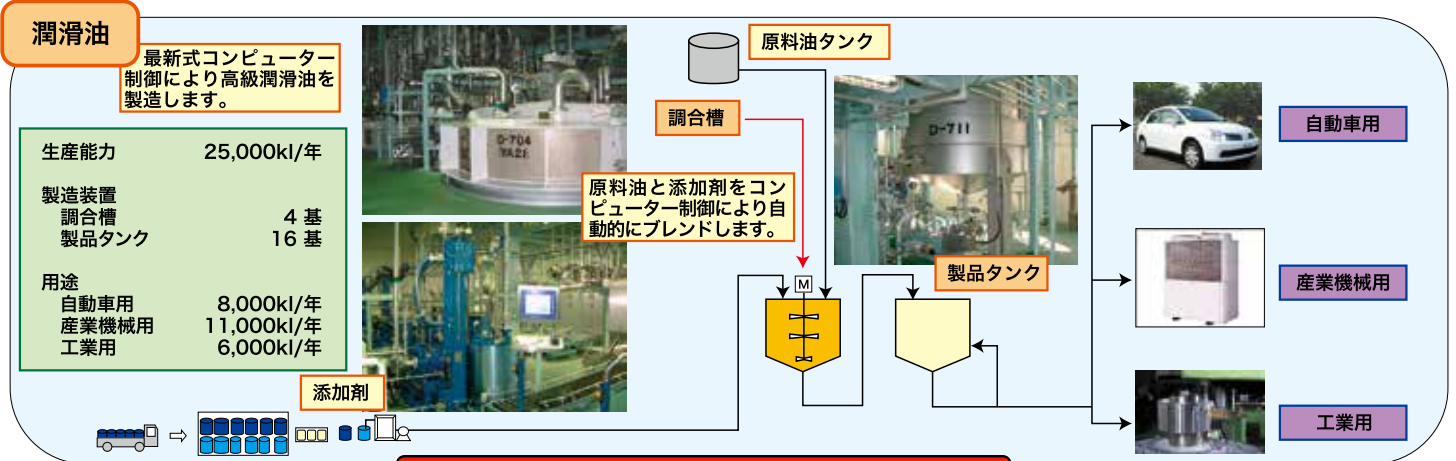
ENEOSでは、潤滑油事業の拡大・海外展開および製品のグレードアップを目的として2012年に韓国のSKグループと提携しています。

横浜製造所では、ENEOS他製油所や韓国SKエンムーブ(enmove)社との共同事業会社(YMAC)などから原料を受け入れ、「ENEOS モーターオイル」「ENEOSディーゼルオイル」などの高級潤滑油や高性能グリースなど、付加価値の高い様々な石油製品を生産しています。

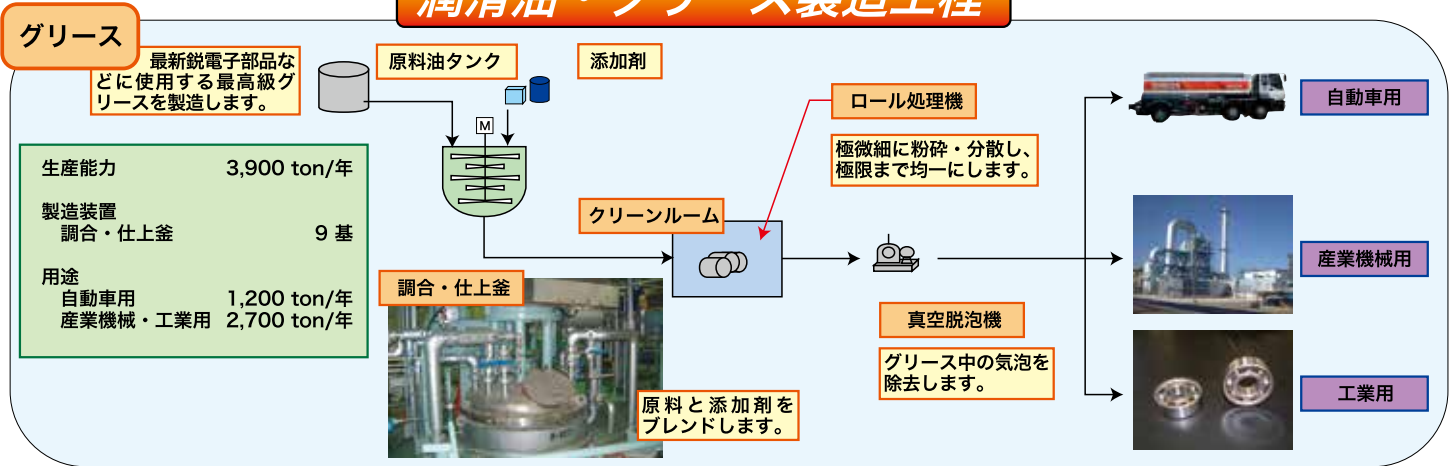
■ 高品質な潤滑油・グリースの製造工程

潤滑油・グリース製造設備

2006年7月、新たに潤滑油・グリース製造設備を竣工。これにより、当製造所における年間潤滑油生産量はこれまでの9万キロリットルから約1.4倍の12万6,000キロリットルに拡大しました。この設備によって、高性能・環境配慮性能(省エネ・長寿命など)を兼ね備えた高級潤滑油及び一般のグリース製品に加え、特に高温での使用に耐え、かつ長寿命である高性能グリースを製造します。



潤滑油・グリース製造工程



炭素繊維材料の製造/新技術の研究開発

潤滑油などの一般の石油製品の製造を行うだけでなく、炭素繊維(カーボンファイバー)材料の製造・開発にも力を入れています。

炭素繊維

長年にわたり研究、蓄積した樹脂技術を活用して、複合材料の代表的中間製品である炭素繊維を用いたプリプレグを製造しています。



プリプレグ製造装置



コンポジットロール

高級潤滑油 ENEOS オイルシリーズ



国内最大級の潤滑油など 詰品入出荷設備を備え一括管理により 物流効率化を図っています。

盤石な防災設備と環境技術で、 安全、環境への配慮に 力を注いでいます。



横浜ルブセンター

1996年4月に潤滑油など詰品の入荷、貯蔵、出荷までの一連作業の自動化による物流の効率化を目的に建設され、自動倉庫で製品を保管する倉庫棟製品の荷捌き及び入出荷を行う荷捌棟ならびに、これらを一元管理する管理室により構成されます。この設備は、石油製品を取り扱うものとしては、日本で最大級の設備であり、入出荷及び在庫管理は、コンピューター制御により行っています。



管理室

入荷から貯蔵、出庫、ピッキング、出荷まで在庫管理を含め、一連の制御を行う集中管理室です。また、倉庫棟及び荷捌棟の状況を把握するため、監視モニターも設置しています。

輸送形態

製品は、様々な形態で出荷されます。燃料油は、主にタンク船、タンクローリーで、潤滑油は、トラック、コンテナ等により全国各地に配送されます。



充填装置

200リットル、20リットル、4リットルなどの容器に充填されます。



ドラム立体自動倉庫

2006年12月、北海道地方から中部地方まで、東日本の一大潤滑油物流拠点として、ドラムの貯蔵能力を増強すべく、ドラム立体倉庫を建設しました。貯蔵能力は1万7000本で、様々なドラム詰石油製品が貯蔵可能であり、危険物ドラム貯蔵としては全国最大級規模です。管理室においては、入出荷・在庫管理などのシステムをルブセンターと連携し、効率的な体制を構築しています。



化学消防車等

危険物施設での災害をそ想定し、大型化学消防車を配置するとともに、近隣7社の間で共同防災組織を形成し、大型化学高所放水車1台、泡原液搬送車1台を配備しています。

地震計

地震に際しては、装置・設備を停止することを防災の基本としています。当製造所内に地震計を設置し、一定の値を示した場合装置・設備を停止し、安全点検を行います。

流出油対策

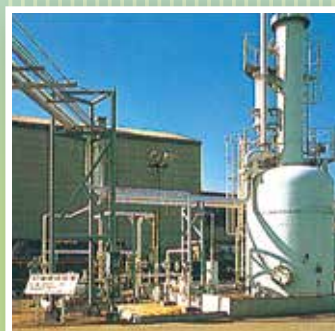
タンカー接岸、荷役の際に安全確保のためオイルフェンスを巡らし、厳重な管理体制のもとに作業を行い、油の流出を防いでいます。さらに万が一に備えて、作業船「第2えびす」を配備しています。



安全面では、消防車、防災資機材などを配備して
非常時に備えるとともに、環境面では、大気汚染、水質汚濁などの
環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

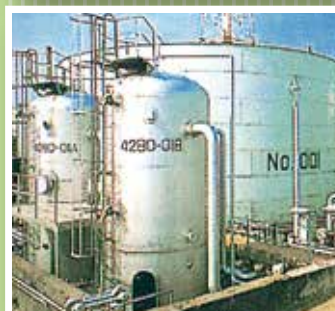
ガソリン・ペーパー回収装置

光化学スモッグや臭気対策としてタンクローリー積込時に発生する炭化水素(ガソリン・ペーパー:ガソリンから揮発した蒸気)を回収しています。また、給油所のタンクに給油する際のペーパーもタンクローリーで製造所に持ち帰り回収しますので、給油所での臭気対策にも貢献しています。



水質汚濁防止/排水処理設備

製造所からの排水は、サンドフィルターやAPIオイルセパレーター、CPIオイルセパレーター、活性炭槽などによる処理を行い、きれいな水にしています。



企業市民として、地域に根ざした社会貢献活動を積極的に推進。

●「防災協定」

2008年1月から製造所の所在する神奈川県子安通三丁目自治会と、大規模地震等の災害発生時に、住民の皆様の避難場所として当所体育館を提供することを内容とする「防災協定」を締結しています。この協定には、神奈川県役所と神奈川消防署も加わり、避難場所が開設された際の支援などを行います。



●地域清掃活動

「横浜クリーン作戦」

所員で、製造所隣接の国道等の清掃を行う「横浜クリーン作戦」を実施しています。



●「ENEOSの森の活動」

地方自治体または(公社)国土緑化推進機構とパートナーシップを結び、一定エリアの未整備な森林の保全を支援する活動のフィールドとして、「ENEOSの森」とネーミングした支援エリアが、宮城県、神奈川県、大阪府、岡山県、山口県、大分県の6か所にあります。

これらの「ENEOSの森」では、各地域で森林保全専門に活躍するNPO等の団体を活動の先生として、当社グループ従業員やその家族などが、植樹、間伐、下草刈り等の森林保全を実施するほか、自然観察や鳥の巣箱かけ、森の恵みのささやかな収穫など、自然に親しむ活動を行っています。



●「ENEOS野球教室」

ENEOS野球部の選手およびOBによる「野球教室」を各地で開催しています。地域の小・中学生を対象に野球の魅力を伝えるとともに、技術指導を行っています。



横浜製造所の歴史

1922年(大正11年)	1月	小倉石油原油輸入基地として開業
1929年(昭和4年)	12月	小倉石油横浜製油所完成
1941年(昭和16年)	6月	日本石油と合併、日本石油横浜製油所となる
1951年(昭和26年)	10月	日本石油、カルテックス社と提携し、日本石油精製を設立
		日本石油精製横浜製油所となる
1961年(昭和36年)	5月	常圧蒸留装置(70,000パーレル/日)稼動
1987年(昭和62年)	7月	常圧蒸留装置廃棄
1995年(平成7年)	2月	潤滑油リラン装置完成
1996年(平成8年)	4月	日本石油、カルテックス社との提携を解消し、日本石油全額出資の精製会社となる
	4月	横浜ルブセンター完成
1999年(平成11年)	4月	日本石油と三菱石油が合併し、日石三菱誕生
	7月	日本石油精製から日石三菱精製に社名変更
2000年(平成12年)	6月	卸発電供給事業営業開始
2002年(平成14年)	4月	興亜石油、東北石油と合併し、新日本石油精製株式会社横浜製油所となる
	7月	潤滑油・グリース調合充填設備完成
2006年(平成18年)	7月	横浜製造所に事業所名変更
2008年(平成20年)	4月	「JX日鉱日石エネルギー株式会社」へ社名変更
2010年(平成22年)	7月	潤滑油精製装置廃止
2014年(平成26年)	5月	韓国SKからの原料受入開始
	5月	卸発電供給事業終了
2015年(平成27年)	5月	「JXエネルギー株式会社」へ社名変更
2016年(平成28年)	1月	「JXTGエネルギー株式会社」へ社名変更
2017年(平成29年)	4月	「ENEOS株式会社」へ社名変更
2020年(令和2年)	6月	「ENEOS株式会社」へ社名変更

